

キッズキャンプと薪

今年のキッズキャンプは好天に恵まれ、参加者も80名を越えて盛会だった。中学生の参加が20名以上で、各班が中学生のリードのもとに活動するという理想的なものになった。中学生は思いやりの気持ちで小学生に接していた。手伝ってもらった小学生は感謝とあこがれの気持ちを持っただろう。子どもたちの活動を支えてくれた方々は、十年来参加している人も多い。子どもたちの扱いも慣れたもので、テキパキと指示を出している。行事を続けている強みだと思いつつ同時に、子どもたちのために時間と労力を割いてくださっていることを有り難く思った。

例年、野外炊事で使う薪を引き受けている。塚越先生に手伝ってもらってトラックに満載し国立吉備少年自然の家に向かった。野外炊事では新聞紙を火種に焚き付けるのだが、欲張らずに細い枝から燃や少しずつ火力を強くしていくのがコツだ。手間取っている二、三の班を手伝った。調理はどの班も手際がよく、カレーとご飯が上手にできあがった。皆で「おいしい。おいしい。」と言いながら食べた。

薪は冬の間にした。20センチ程度のカシやコナラの木を伐採して、40センチの長さで胴切りする。チェーンソーを使うが、木を倒す時はいつも少しばかり緊張する。始めに斜めに切り込みを入れて倒す方向を調整するのだけれど、廻りながら倒れることもあり、予定した方向とは大きくずれて倒れることもある。

胴切りした丸太を斧で割るが、太い部分は一撃では中々割れない。そういう時は、斧を丸太に立てたまま大きなハンマーで斧の上を叩く。二、三回叩くとたいていはバキッと割れる。半分に割ってしまえばしめたもので、気持ちよくパカンパカンと割れる。丸太を三本ほど割ると一休みし、作業を続ける。小一時間もすれば結構な量の薪ができる。できた薪は農機具小屋の一角に積み重ねる。もう十分だなと思えるぐらい積み上げると、とても満足した気持ちになり、少々裕福になったような気さえる。そんな自分がおもしろい。全身を使う作業なので、寒くて他の作業が億劫おつくうな日などには最適だ。

今年は、久方ぶりにキャンプファイヤーをすると聞いていたので、残った薪はキャンプファイヤーで燃やしてほしいと頼んでいた。けれども、終わりの時間が来て燃やせなかったそうで、結構な量が残っていた。金平先生に手伝ってもらって、薪を農機具小屋に積み戻した。二人でするとはかどるし、話をしながらの作業なのでしんどくもない。あつと言う間に積み終えることができた。

少しばかり量が寂しくなった薪を見ながら、今年の冬もがんばるぞと思った。

